

2017年度（平成29年度）

コース名 地球科学コース

領域名 地球表層科学領域

教員名 宮内 崇裕

電子メール tmiya 理 faculty.chiba-u.jp

※メール送信の際は、「理」を半角@に変更してください。

(1) 研究論文などのリスト（印刷中を含む）

	著者・発表者 等	タイトル	発表雑誌・会合 等	巻・号	頁	発行・発表年等	掲載論文の DOI (付与されている場合)
(1)	今泉俊文・宮内崇裕・堤浩之・中田高	詳細デジタル活断層図（新編）	東京大学出版会	全 頁	担当：第 1部（合 計 頁）	2018年3月11日（印刷中）	
(2)	Ishimura, D. and <u>Miyauchi, T.</u>	Holocene environmental changes and paleo-tsunami history in Onuma on the southern part of the Sanriku Coast, northeast Japan	<i>Marine Geology</i>	386		2017年4月1日	https://doi.org/10.1016/j.margeo.2017.01.011
(3)	Yamashita, Y., Sakashita, S., <u>Miyauchi, T.</u> , and Imaizumi, T.	Delineation of Active fault using high-density array CSAMT method	SEG Technical Program Expanded Abstracts 2017	Extended abstract	1236-1 240.	2017年9月	
(4)	Nicola, L., Kate, C., <u>Miyauchi, T.</u> , Berryman, K., Yoko, O., and Fujimori, T.	Holocene marine terraces record long-term uplift along the Kaikōura coastline	<i>8th International INQUA Meeting on Paleoseismology, Active Tectonics and Archeoseismology (PATA)</i> ,	Extended abstract	13-16.	2017年11月	
(5)	<u>宮内崇裕</u> ・岡田篤正・杉戸信彦・鈴木康弘・吉田英嗣	都市圏活断層図「1:25,000, 恵那」および解説書	国土交通省国土地理院		D1-No.7 58	2017年8月	

(6)	岡田篤正・廣内大助・松多信尚・ <u>宮内崇裕</u>	都市圏活断層図「1:25,000, 中津川」および解説書	国土交通省国土地理院		D1-No.7 58	2017年8月	
-----	-----------------------------	------------------------------	------------	--	---------------	---------	--

(2) 卒業研究、大学院修士および博士論文修了指導人数

- ・卒業研究 3名
- ・大学院修士 0名
- ・大学院博士 0名

(3) 教育業績 (自己申告、テキストの作成など、授業の工夫など)

担当科目を順調に実施した。

(普遍教育)地域コア科目「地域の地学的背景を知る」(COCプロジェクト対応科目)

(学部専門科目)地学基礎実験 A, 地球科学英語, 地球科学入門 B, 地表動態学概論 2, 地形学Ⅱ, 地形学実験Ⅰ, 地形学実験Ⅱ, 卒業研究, 地球科学演習

(大学院博士前期課程) 地形学Ⅴ, 地表動態学特論 2, 特別演習Ⅰ, 特別演習Ⅱ, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ

(大学院博士後期課程) 地形学Ⅴ, 特別演習Ⅰ, 特別演習Ⅱ, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ

(4) 国際会議出席と招待リスト

- ・米国物理探査学会 SEG Technical Program, ヒューストン(米国), 2017年9月27日, Delineation of Active fault using high-density array CSAMT method.
- ・INQUA 第8回アクティブテクトニクス・考古地震学に関する国際ワークショップ (PATA), ニュージーランド, 2017年11月13日, Holocene marine terraces record long-term uplift along the Kaikōura coastline (招待講演)。

(5) 国際共同研究 (共同研究名, 研究内容等)

所属	職種	氏名	共同研究名	研究内容	年度
理	教授	宮内崇裕	フィリピンの地震発生予測精度向上に関する研究 (フィリピン国立地震・火山研究所)	活断層および海成段丘のマッピングと解析によって、フィリピンにおける地震発生リスクの評価を行う。平成29年度は、9月にフィリピンにおける活断層および地震性地殻変動の現地調査を行った。	29

(6) 新聞や雑誌等で報道された研究成果等 (報道媒体, 報道年月日, 報道内容等)

(7) 国際並びに国内学会での受賞 (賞名, その内容, 受賞理由等)

(8) 地域・社会と連携した教育・研究活動, 学会、国、県などへの協力, など

1. 独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員を努め, 科学研究費応募書類の審査を行った (平成 29 年 12 月 1 日～平成 30 年 11 月 30 日)。
2. 文部科学省・地震調査研究推進本部地震調査委員会委員 (長期評価部会活断層分科会): 社会的・経済的に大きな影響を与える 125 の主要活断層から発生する地震の長期評価を継続的に行うとともに, それ以外の活断層を含めた地域単位の地震発生の長期評価を総合的に行った。
3. 文部科学省による科学技術基礎調査委託事業である「活断層の評価に関する調査研究」および「富士川河口断層帯における重点的な調査観測」の事前審査委員, 技術審査専門委員, 公募選定委員も務めた
4. 国土交通省・国土地理院 全国活断層帯情報整備検討委員会 (旧: 都市圏活断層図作成調査検討委員会) 委員: 1995 年の阪神・淡路大震災を契機に、活断層に関する情報の整備及び公開の必要性が高まったことに応えるため、国土地理院では、人口が集中し、大地震の際に大きな被害が予想される都市域とその周辺について、活断層の位置を詳細に表示した 2 万 5 千分の 1「都市圏活断層図」を平成 7 年より活断層の研究者と共同で作成した。
5. (財) 地震予知総合研究振興会活断層位置形状検討ワーキンググループ委員会委員 (平成 14 年 5 月より現在に至る): 文部科学省地震調査研究推進本部からの委託を受けて地震調査委員会等の審議に資するための活断層に関する位置・形状の情報の収集・解析を行った。
6. 日本活断層学会理事 (平成 28 年 4 月～30 年 3 月): 企画調査委員会担当理事として学会の運営にあたり, 活断層調査研究に関する企画立案を行い, 学会の成果を社会へ発信・還元への重責を担った。
7. 千葉大学 COC+ (コミュニティ再生事業プログラム) における自治体との共同研究において, リソル生命の森「お茶の間ゼミ」において「千葉県を襲う直下型大地震」と題する講演を行い, 教育関係管理責任者における震災減災の意識向上に協力した (平成 29 年 12 月 9 日)
8. 東京大学地震研究所「富士川断層帯における重点的な調査観測」外部評価委員, および「断層帯深部形状の評価に関する活断層調査研究」外部評価委員を務めた (平成 29 年度)。
9. 国立研究開発法人産業技術総合研究所「鴨川低地断層帯の活断層調査」外部審査委員を務めた (平成 29 年度)

(9) 特許 (発明者名, 発明の名称, 出願日, 出願番号, 整理番号等) (現時点で公表できるもののみ)